

今なぜ？ ミサイル防衛なのか 「イージス・アショア」配備断念後に急浮上 コロナ危機のなか「敵基地攻撃能力」推進

陸上配備型の「イージス・アショア」が住民の反対運動と自らのウソの説明がばれて断念に追い込まれた政府。性懲りも無く次に持ち出したのが「敵基地攻撃能力」論。

相手が攻撃する前に相手を先制攻撃する・・・当然のことながらその内容は、①他国領内のあらゆるミサイル基地の位置把握、②防空レーダーや対空ミサイルへの攻撃・無力化、③ミサイル発射基地の破壊、など一連の軍事作戦であり、全面的な敵国への先制攻撃だ。

まさに、世界に誇るべき日本

国憲法九条をないがしろにし、国際法にも反する許されない考えと言わざるを得ない。

着々と進む「敵基地攻撃」準備

中期防衛力整備計画（2019年～2023年、27兆5000億円）

F35ステルス戦闘機、攻撃型空母、長距離巡航ミサイルなど、いずれもアメリカの言いなりに武器を買い漁り、挙げ句の果てにアメリカが引き起こす戦争に日本の自衛隊がかり出される。背筋の凍るような企てです。

雇用・医療・生業・学業などコロナ禍に苦しむ国民には“自助”を押し付け“敵基地攻撃”に熱心な菅政権には退場のレッドカードを渡す以外にない。



イージス艦とは、イージスシステムを搭載した艦艇の総称。通常、高度なシステム艦として構築されている。フェーズドレイレーダーと高度な情報処理・射撃指揮システムにより、200を超える目標を追尾し、その中の10個以上の目標を同時攻撃する能力を持つ。

核兵器禁止条約

世界が待ち望んだ発効 (1/22)

次は日本政府を動かす時

全国各地で行動 土浦でも街頭行動

1月22日、核兵器の製造、保有、使用などを全面的に禁じる核兵器禁止条約がついに発効となりました。

土浦では、新婦人の呼びかけに応え市内の各団体が共同で街頭アピール行動を行いました。土浦平和の会もこの行動に合流。

ただ一つの戦争被爆国である日本の政府はこの条約に背を向けたままです。新たなたたかいがスタートしました。

1/22午前、総勢22名が街頭からアピール
土浦平和の会も合流



2・11 百里初午まつり コロナ渦中、200名結集

2月11日、今年の初午まつりは好天に恵まれ暖かな開催日となりました。コロナ禍で東京をはじめ県外からの参加はなく、会場での飲食もありませんでした。

だが、百里基地の誘導路をくの字に曲げた平和公園に、各界から200名を超える参加（昨年は450名）となり、平和を守る決意をかため合いました。谷萩陽一弁護士が百里弁護団長の内藤功弁護士の挨拶を代読しました。土浦からは10名の参加でした。



谷萩陽一さんのFB東光投稿写真を拝借

スガさん、ムリです。米軍基地おしつけ きっぱり断念を

安倍前首相が、新米軍基地建設のために沖縄・辺野古へ土砂投入を開始して2年になります。しかし投入された土砂はわずか4%。予定地には軟弱地盤や活断層が広がり、専門家は、震度1の地震でも崩壊する危険があると警告します。米国のシンクタンク戦略国際問題研究所は、「完成する可能性は低い」と報告しました。沖縄県の試算では早くも15年、経費は2.5兆円に及びます。きっぱり断念すべきです。

軍拡やめてコロナ対策、暮らしへ

新型コロナの拡大が止まず、無策、場当たり、無責任・・・菅政権の失政に、私たちの命と暮らしが削られています。貧弱な国民への手立ての一方5.5兆円もの軍事予算。“ストップ・スガ”が急がれます。(日本平和委員会2021年1月宣伝ビラより)

学びましょう、非同盟運動

「21世紀を動かす非同盟運動 参加報告冊子をどうぞ

核兵器禁止条約の推進など世界政治の主角を務めるようになりつつある非同盟運動。アゼルバイジャンの首都バクーで開かれた第18回首脳会議(2019年10月開催)にオブザーバー参加した日本AALA代表团による報告・資料集です。非同盟運動(NAM)のそもそもからわかる対話形式の解説もついています。(A5版134ページ・税込み880円)



30周年「記念ボールペン」

赤軸・緑軸2本セット

2本セットで500円(インクは両方とも黒)

「茨城県平和委員会 30周年記念
2020年12月」の銘入り



希望者はお声かけください。

「100分で名著 マルクス”資本論”」がNHK [Eテレ] で放映されました。私はこの番組が好きで愛読ならぬ愛聴してきましたが、今回ほど面白いと思ったことはありません。膝を打ちながら視聴しました。

番組は1月4日から25日までの月曜日、全4回放送(再放送・水曜日)されました。大阪市立大学の齋藤浩平さんを講師に、司会の伊集院光さんとNHKアナの安部みちこさんが絶妙な突込みを入れての進行でしたのですが、如何せん時間が足りません。それを補って余りあったのがテキストでした。

まだの方はぜひテキストを読まれることをお勧めしたいと思います。

表紙のリード記事を紹介しますと「蘇る、実践の書」「社会の矛盾を突破し、共

に生きるために。」「極貧生活の中で書かれた『資本論』。マルクスは、資本主義が格差の拡大、気候変動などの危機をもたらすことを予見していた！晩年に遺した新資料も参照し、みなで本当の『富』を取り戻すための方策を探る。」です。圧巻の冊子です。

マルクス”資本論”を学ぶ

「100分で名著マルクス”資本論”」

今井 健治 (土浦平和の会)

街の本屋さんにはこのテキストが山積みになっていました。それが放映開始と共にあっという間になくなり再入荷、そしてすぐに品切れです。

視聴者の『資本論』に対する関心の高さ、NHKがこの2021年という年の初めに「実践の書」として『資本論』を取り上げた英断に拍手を送りたいと思います。是非、一読を！

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額520円(送料含)

